

## 自己評価および外部評価結果結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>理念に基づく運営</b>					
1	(1)	理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	地域社会とつながりを持つ事を大切に、職員に理解してもらい、日々のケアの中で取り組んでいる。	グループホームぼけっとの理念は全職員の参加により策定された。(平成21年5月)。故に管理者・職員が自らの目標として、その実現に向けて努力している。	理念を固定的なものせず、社会状況・職員の異動・利用者とその家族のニーズ等の変化に対応して行く為に、定期的な再認識と必要に応じた見直しを行う事を期待します。
2	(2)	事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域住民の一員として、組合に入りゴミ拾い等地域の活動に参加している。	事業所は地区の常会(伊久間区町会)に加入し、その活動に職員が積極的に参加している。その一方「ぼけっとまつり」の開催等で交流を深めている。	旧居住者と新居住者が混在する地域であり、事業所が地域に溶け込むには工夫と時間が必要と思われます。地域の皆さんに期待され支援されるホームとなる事を期待します。
3		事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	人材育成の貢献として実習生を受け入れている。事業所のお祭り等ボランティアでの参加の中で認知症の方の介護		
4	(3)	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	事業所からの報告と共に参加メンバーから質問、意見、要望を受け双方向的な会議になるよう配慮している。また自己評価、外部評価についても内容まで報告している。	運営推進会議は地区代表者・児童民生委員・家族代表・自治体(村住民課)・理事長・管理者で開催し意見交換がされている。	会議内容は事業所からの報告が主であり、マンネリ化も成り易いかと思えます。より自由な意見交換や発想を求める「しかけ」の工夫も必要と感じます。活発な会議になる様期待します
5	(4)	市町村との連携 市町村担当者とは日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	ホーム便りを配布したり、法律面で解からない事が有った場合など相談にのって貰っている。職員研修などのアドバイスをもらう。	村担当者との連携を進めている。	村及び事業所の担当者の人事異動によりコミュニケーションのあり方も影響するかと思えます。継続的な関係構築を進めることを期待します。
6	(5)	身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束についての研修は2～3年前に実施したのみになっている。あらためて職員の共通理解を図ってケアに取り組んでいきたい。また研修も行なって行きたい。	現在、身体拘束を実施する状況ではない。	今後とも状況に応じた定期的・継続的な研修を勧めて頂く事に期待します。
7		虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	高齢者虐待防止関連法について2年前に研修行なったが、今後も2～3年に1度の頻度で研修の機会を持ちたい。		
8		権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	成年後見制度を利用されている方がいらっしゃる。今後全職員を対象に研修の機会をもち、理解を深めて行きたい。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
9		契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又はや改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約は時間を取り丁寧に説明している。事業所のケアに対する考え方や、取り組み、重度化や見取りについての対応、他施設との違いも含め、説明を行なっている。		
10	(6)	運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	苦情受付窓口を、ホーム便りなどで定期的にお知らせしたり、家族会で意見、不満、要望を出して頂くようお願いしている。月末に入居者の健康、日常の生活の様子を便りとして家族に送っている。	利用者、家族のアンケート結果からコミュニケーションの状況は良好と思います。利用者毎の様子を家族に連絡している。家族からも感謝記述が多数寄せられた。	今後の家族へ利用者の様子などのフィードバックは相互の信頼関係で重要と考えます。対応可能・不可能に関わらず継続していく事に期待します。
11	(7)	運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	入居者の受入時など職員全体の意見を聞いて決定している。年に1度理事長との面接があり、職員一人ひとりが意見を伝える場を設けている。	運営委員会を月に1回(2~3時間)開催している。職員と理事長との個別面談が年1回実施されているが、概ね短時間でされている。	情報交換と自由闊達な意見交換が行える様に今後も配慮して頂く事を期待します。理事長との面談も人事面とは分けた時間帯など設定頂く等留意すること期待します。
12		就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	資格取得や受講を支援している。労働基準法に則って労働条件を整えている。		
13		職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	外部研修に参加し、その後、職員会等での報告の場を設けている。内部でも研修係を設け月1回の研修を実施している。		
14		同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	飯田・下伊那地域相互評価検討会議に参加し、情報交換や、勉強会を行い、質の向上に取り組んでいる。		
<b>安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前にケアマネジャー、管理者が、自宅に本人と在宅ケアマネジャーの話を聞きに行く、本人がグループホームへ見学に来る等している。		
16		初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	これまでの経過や困っている事、不安をじっくり聞いて、事業所としては、どの様な対応が出来るか説明している。		
17		初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人の希望と家族の希望を別々にじっくり聞く機会を持ち、居宅のケアマネジャーとも話をした上で、全員揃った場でもう一度話し合い、その中で「その時」必要としている支援を見極める様に努める。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
18		本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	野菜・花作り・料理・地域の地理・昔の風習・人間関係のコツ等人生の先輩として助言をして頂いたり、感謝の言葉を伝えたり、教養の高さを言葉に出して敬意を表している。		
19		本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	入居者の日々の暮らしの出来事や気付きの情報の共有に努め、家族と協力関係を築きながらケアを進めている。		
20	(8)	馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	入居前まで利用していた食料品店や雑貨屋さんに行ったり、ホームの協力医でなく、信頼できる主治医に往診して貰ったり、自宅に来ていた知人がホームに来てくれている。	利用者が近隣の方が多いので、今までの生活環境・人間関係等継続出来ている。地域の住民との朝の挨拶等交流に努めている。	
21		利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者が同士の関わり合い、支え合えるような支援に努めている	入居者同士の関係がうまくいくように職員が調整役となって支援する。試行錯誤の連続ですが寄り良い関係が築ける様努めたい。		
22		関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	サービス利用が終了した方も行事に招待したり、ご家族の方からお電話・手紙等頂いたり、元気確認している。		
<b>その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々の関わりの中で声をかけ、言葉や表情から思いや意向を把握するように努めている。今までの暮らしを把握して、今何が必要なのかを発見する様に取組んでいる。	職員は利用者の「ことば」だけでなく、所作・表情からの状況の把握・確認を重視している。またそれを「気付きノート」に記入し、職員間の共有化・処遇等に活用・対応している。	「気付きノート」から「24時間記録」への転記を通して、利用者の個人別時系的な状況把握は生の情報を活かすとてもよりシステムとも思いますが。継続的利用に期待します。
24		これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居時に記入して頂いた生活歴のシートや、面会に見えた時にご家族、知人からの情報を活用して、入居前の状況把握に努めている。		
25		暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	24時間記録や、他の職員から状況把握に努めている。		
26	(10)	チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	利用者の担当制を取り入れ、担当職員と計書作成担当者が中心となり、介護計画の原案を作成し、カンファレンスで話し合っている。原案作成以前に、本人・家族の意向を伺い、計書作成に反映させている。	定期的に担当者と関係者で協議し、関係資料・情報をチームで作成している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
27		個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	24時間記録の記入と、気付きノート及び申し送りノートをかつようして、情報の共有を行いながら、日々の介護を行うと共に、介護計画の見直しに繋げている。		
28		一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本人のニーズに合わせて、ボランティアさんをお願いしている。		
29		地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	村の包括支援センターや、社会福祉協議会とも連絡を取って、グループホームで利用できるサービスを確認している。		
30	(11)	かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	事業所の協力医の他、入居前からのかかりつけ医での医療を受けられる様支援している。基本的には家族同行受診となっているが、家族の都合で職員が代行する。定期的な受診は往診依頼をしている。	協力医として村内2医院(内科・歯科)、近隣市町村1総合病院・利用者のかかりつけ医等による診療体制を整えている。	
31		看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	常に入居者の健康管理や状態の変化に応じた支援を行える様にしている。看護職員のいない時間帯でも連絡を取り報告し、看護職員の指示で介護職員が対応出来る様になっている。		
32		入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	ここ1~2年入院者もなく、現在入院が必要な利用者も居ない為何もしていない。		
33	(12)	重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居時に重度化した場合、ホームの対応方針を説明し、その上で、本人や家族の終末期のケアについての希望をお聞きし同意書作成している。又状態の変化や家族の気持ちの変化・本人の思いに注意を払い、それに沿って対応する様努めている。	事業所の対応指針等説明し、本人・家族の希望に沿う様にしている。	本人・家族等その時の状況等により変化すると思われます。状況による方針変化が、関係者間でブレル事が無い様意識的・定期的に連携・説明・記録等充実する事に期待します。
34		急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変や事故発生時の対応マニュアルで確認をしたり、防災訓練の際に心肺蘇生の実施訓練を行っている。		
35	(13)	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回昼間の防災・避難訓練、夜間の連絡訓練を実施している。	法令と計画に基づき必要な訓練等処置も講じている。スプリンクラーについては実施を計画中である。	防災(水害を含む)・安全対策については、過ぎたる事はない重要項目です。夜間の体制(特に救出・救援)について、一層の強化を期待します。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	日々のケアの中で、お互いに気付いた事は注意し合う様にしている。個人情報保護についての研修は過去に事業所全体で実施、職員の意識向上を図っている。	個人情報の研修については近年実施されていないが、職員は日々の中で注意し合う事を心掛けている。	ちょっとした気の緩み等で不注意による不足の事態が起きない様に、年に1回程度の計画的な教育・研修により、注意奮起を促す事を継続してゆく事を期待します。
37		利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	起床・就寝時間・食べたい物・食事時間・散歩に行くか行かないか等生活のあらゆる場面で本人に意思表示して貰える様にじっくり時間をかけて待つ姿勢でケアしている。言葉での意思表示が困難な方の支援は日頃の様子から好み等把握する様にしている。		
38		日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	本人の望みを聞いたり・察したりし、なるべく本人の望んでいるペースにあわせた暮らしが出来るよう支援に努めている。		
39		身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	汚れれば直着替え、常に小綺麗にし、臭いにも気を配り、2ヶ月に1度、美容師に来て頂き個人に合った髪型にカットして頂いている。		
40	(15)	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	一緒に買い物に行き、食べたいおやつを選んで貰う・食材を決めるなど、出来る範囲で調理・味付・盛り付け・片付け等職員と一緒に行って貰う、又一人ひとり身体状況に合わせ、料理の形状に配慮している。	食事の用意に利用者が一緒に取組んでいる。食事は個別に計量される細かな配慮が見られた。食事時間は利用者のペースで丁寧に実施されていた。	
41		栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	栄養面では、栄養士の立てた献立にそい、水分・食事摂取量を記録し職員が情報を共有している。栄養士より高齢者の食事について研修を受けている。		
42		口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	入居者一人ひとりの力に応じて、歯磨きの見守り、昼・夕食後の義歯洗浄、水分摂取・介助を行っている。		
43	(16)	排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	パットを使用している入居者に対しても、なるべくトイレ誘導し、トイレで気持ちよい排泄を促している。排泄の失敗も本人のプライドを傷つけない様に周囲に気付かれない配慮をし対応している。	利用者の状態に合わせて対応している。3箇所トイレは適所に配置されていた。	
44		便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	献立の中に食物繊維の多く含まれる食材を使っている。冷水・牛乳・身体を動かすよう促し、なるべく自然な排便がある様に支援している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
45	(17)	入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	入浴したい日や希望する時間帯に入浴出来る様に配慮している。また菘蒲湯、ゆず湯等季節感を取り入れ楽しんで貰えるよう努めている。夏は希望によりシャワー浴も実施している。	風呂場は清潔・きれいにて好感が持たれた。入浴は午前9時～午後4時30分までが原則であるが、利用者の希望等に対応している。	
46		安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	昼夜逆転しない様、日中の活動を促し生活のリズムを整えるよう努めている。また、その時々利用者の状況に合わせて随時休息が取れる様に支援している。		
47		服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬のファイルに入居者毎の説明書を整理し、いつでも職員が確認出来る様にしてある。配薬時、チェック表で二重のチェックを行い誤薬の防止に努めている。		
48		役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	本人の趣味、嗜好に合わせて、力を発揮して貰い、又、お願いできそうな日常の仕事を頼み、感謝の言葉を伝え継続出切る様に支援している。		
49	(18)	日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	天気や本人の希望に応じて、散歩・買い物・花見に出掛けている。歩行困難なケースでも、車イスで散歩や花や草を摘んだりドライブに出掛け季節を感じられる様に支援している。	その時々状況。希望に応じて対応している。季節・天候など加味してドライブ・近くを車椅子などで散歩など実施している。	
50		お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	ホームでお金を預かり管理しているが、買い物の際は自分で支払って頂くようにしている。		
51		電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	本人の希望により電話を掛けたり手紙を書いて、本人がポストに持って行ける様に支援している。		
52	(19)	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	お雛様や七夕の飾り付けを入居者と職員と一緒にいたり、流しそうめん・おはぎ作り・サンマ焼き会等季節感を取り入れている。また童謡など心地良い音楽を流すなどしてゆったりと穏やかに過ごせる工夫をしている。	照明・室温も快適な木目を活かした落ち着いた雰囲気の中、季節・風習等を取り入れながらゆったりと過ごされる様、音楽を流す等工夫されていた。利用者はゆったりと過ぎる時間を楽しんでいる様に感じた。	
53		共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ホールにソファを置いたり廊下やテラスに椅子を置いたりして、一人で過ごしたり、仲の良い入居者同士でくつろげるスペースを作っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
54	(20)	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居時には、使い慣れた物、馴染みの物、見慣れた物等持って来て頂き、なるべく違和感なく居心地よく過ごせるように努力している。	利用者それぞれが室内のレイアウトで身の回りの持ち物を自由に楽しんでいる様を感じた。整理整頓もされ落ち着いた生活をされている様に思われた。	
55		一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	車椅子移動や介助歩行の方でも出来るだけ自立して排泄出切る様、トイレに背もたれクッションや踏み台を設置した。		